

政策	I 国際競争力及び産業競争力の強化と港湾物流の環境変化に対応した港づくり		
重点施策	1 国際産業戦略港湾の実現に向けた取組の強化	施策推進 責任者	企画調整室長・港湾部長・建設部長
施策	1 国際・国内海上輸送機能の強化		

**政策 I : 物流**  
重点施策1・施策1

1. PLAN (目的・展開内容)

※シート中、「感染症」とあるのは、すべて「新型コロナウイルス感染症」を指す。

目的	サービスの対象者(誰のために)	船会社、港湾運送事業者、荷主	意図(どういう状態にしたいのか)	船舶の大型化に対応するなどコンテナターミナルの機能強化をするとともに、多頻度、多航路の航路サービスが就航し、中部地域の「ものづくり産業」の持続的な発展を支えていく港
	サービスの対象物(何を)	港湾施設(航路・泊地、岸壁等)や航路サービス等の海上輸送機能		
展開	(重点施策1) 船舶の大型化等に対応するためのコンテナ取扱機能の更なる強化や、完成自動車取扱機能の集約・拠点化等による効率的な完成自動車輸送に向けたふ頭再編の取組を積極的に進める。 また、ポートアイランドの利活用や、AI、IoTなど情報通信技術の活用によるコンテナターミナルの生産性向上等、次世代への施策展開につなげていく取組を関係者と連携しながら進める。 次世代エネルギーの受入環境の整備、港湾荷役機械やトラック等のFC化等の取組を通じ、カーボンニュートラルポート(CNP)の形成を進める。 港湾整備や維持等に伴い発生するしゅんせつ土砂を長期的・安定的に処分するための新たな土砂処分場の早期確保の取組を、関係者と連携しながら進める。 県内3港(名古屋港、衣浦港、三河港)と背後地産業のサプライチェーン全体の生産性向上を目指して、関係者が連携して港湾物流機能強化施策に取り組む。さらに効果的な取組となるよう、伊勢湾全体での広域的な連携も進める。			
	(施策1) 船舶の大型化等に対応するため、荷役機械(ガントリークレーン)の整備やターミナルの拡張など、コンテナ取扱機能の更なる強化を図るとともに、航路の機能維持・強化への取組を進める。 国際競争力を維持・強化しながら、港湾機能を長期的・安定的に維持していくため、継続的にしゅんせつを行う。 名古屋港の立地優位性を活かし、官民一体となった国内外へのポートセールスや、船社や荷主のニーズを的確にとらえたインセンティブを行うことにより、集貨・創貨拡大への取組を進める。 入出港する船舶への情報提供等を行うことにより、安全で円滑・効率的な港湾の利用を図る。			

2. DO (施策を構成する各事務事業の取組内容・今後の方向性)

(1) 重点施策1

コード	事務事業名 (担当課名)	成果目標名 【指標型】	元年度	2年度	3年度	目標値 (5年度)	3年度の 状況	3年度実施事業に基づく評価結果			
			上段: 成果目標 目標値					4年度以降の方向性	・事務事業の方向性を判断した理由 ・目標年次の変更等の理由 等		
			中段: 成果目標 実績値						成果	コスト	
			下段: 事業費(単年度・人件費込・国費除く)								
重施 01 事01	飛鳥ふ頭地区ふ頭再編改良事業 (事業推進課)	飛鳥ふ頭地区岸壁(水深15m)(改良)整備進捗状況(全6工程) 【進捗管理型】	3工程	4工程	4工程	6工程(累計)	やや遅れ	継続	維持	維持	船舶の大型化や老朽化への対策を進め、コンテナターミナルの取扱機能強化を図る必要があるため。なお、R1岸壁については令和4年10月頃の供用開始を目的に整備を進めている。
			3工程	3工程	3工程				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			2,225,017千円	2,801,186千円	2,966,980千円					5年度完了	
重施 01 事02	金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業 (事業推進課)	金城ふ頭地区岸壁(水深12m)(新規)整備進捗状況(全5工程) 【進捗管理型】	3工程	3工程	5工程	5工程(累計)	やや遅れ	延伸	維持	維持	施工方法の見直し等に伴う工程の見直しにより、事業延伸が必要となったため。今年度の工程見直しにより事業完了年度を延伸した。(令和3年度→10年度)
			3工程	3工程	3工程				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			2,246,447千円	3,339,590千円	4,074,520千円					3年度完了	
重施 01 事03	新たな土砂処分場の確保 (海域調整担当)	新たな土砂処分場の確保に向けた進捗状況(全6工程) 【進捗管理型】	4工程	4工程	6工程	6工程(累計)	順調	完了			国による護岸整備が着手し、名古屋港で発生するしゅんせつ土砂を長期的かつ安定的に受け入れることができる処分場の確保が図られたため。
			3工程	4工程	6工程						
			18,348千円	27,483千円	4,649,440千円				3年度完了		
重施 01 事04	ポートアイランド利活用のあり方検討 (企画担当)	検討の進捗状況(全3工程) 【進捗管理型】	1工程	2工程	2工程	3工程(累計)	順調	継続	維持	維持	引き続き、利活用のあり方について関係者と議論を重ねていくため。
			1工程	2工程	2工程				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			9,676千円	11,430千円	7,780千円					5年度	
重施 01 事05	カーボンニュートラルポート(CNP)形成の推進 (次世代エネルギー推進担当)	CNP形成の推進に向けた進捗状況(全4工程) 【進捗管理型】			1工程	4工程(累計)	順調	継続	維持	維持	令和4年度末を目的に、「名古屋港CNP形成計画」を策定していくため。
					1工程				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
					26,800千円					5年度	
重施 01 事06	LNGバンカリング拠点形成の支援 (計画担当)	情報共有や協議の回数 【単年度管理型】	3回	3回	3回	3回	目標値を上回る	継続	維持	維持	引き続き、LNG燃料船の寄港を促進する必要があるため。
			3回	7回	5回				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			3,670千円	3,664千円	3,600千円					5年度	
重施 01 事07	名古屋港の物流効率化に向けた情報通信技術の活用 (企画担当)	情報共有や協議の回数 【単年度管理型】	3回	3回	3回	3回	目標値を上回る	継続	維持	維持	引き続き、情報通信技術の活用に向け取り組む必要があるため。
			3回	4回	9回				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			9,445千円	9,274千円	9,485千円					5年度	
重施 01 事08	愛知県内3港連携・伊勢湾連携の推進 (企画担当)	連携する施策数 【進捗管理型】	3施策	4施策	5施策	6施策	順調	継続	維持	維持	引き続き、連携施策を実施し物流機能の強化に努め、国際競争力を高めていく必要があるため。
			4施策	4施策	5施策				取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。		
			7,614千円	7,604千円	7,470千円					5年度	

(2) 施策1

施策ID	施策内容	事業の進捗状況(全5工程) 【進捗管理型】	2工程	3工程	3工程	3工程(累計)	順調	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	荷さばき地の拡充を図るため、飛鳥ふ頭南コンテナターミナル背後地の整備を進めていく必要があるため。
			2工程	3工程	3工程				5年度	維持		
施01事01	飛鳥ふ頭南ふ頭用地整備事業 (事業推進課)	事業の進捗状況(全5工程) 【進捗管理型】	40,903千円	19,886千円	131,080千円	5年度	順調	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	荷さばき地の拡充を図るため、飛鳥ふ頭南コンテナターミナル背後地の整備を進めていく必要があるため。
施01事02	飛鳥ふ頭南側コンテナターミナル拡張予定地の活用 (企画担当)	取組の進捗状況(全4工程) 【進捗管理型】	3,670千円	6,184千円	3,600千円	5年度	やや遅れ	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	拡張用地として確保した用地は、施設整備までの間、有効に活用していく必要があるため継続とする。また、令和3年度の状況が「やや遅れ」となった要因としては、事業者との調整による影響が大きいためであり、4年度以降の方向性としては、成果・コスト共に「維持」とする。
施01事03	西航路拡幅事業 (事業推進課)	整備面積(全520,000㎡) 【進捗管理型】	8,914㎡ 8,914㎡ 20,275千円	64,626㎡ 17,829㎡ 20,367千円	291,646㎡ 26,743㎡ 20,360千円	520,000㎡(累計) 4年度完了	遅れ	継続	拡大	拡大	資源(財・人)の投入を拡大し、取組を強化することによって、成果をあげる必要がある。	船舶が安全かつ円滑に入出港できる航路幅・推進を着実に確保する必要があり、事業進捗の一層の進捗を図る必要があるため。
施01事04	庄内川泊地整備事業 (事業推進課)	庄内川泊地の埋没により、使用を停止した港湾施設の数 【単年度管理型】	0件 0件 534,893千円	0件 0件 148,343千円	0件 0件 766,170千円	0件	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	船舶が安全かつ円滑に入出港できる泊地の水深維持を着実に行う必要があるため。
施01事05	港内泊地の維持しゅんせつ (海務課)	水深規制解除 【進捗管理型】	1件 0件 332,679千円	2件 0件 1,832千円	3件 0件 1,800千円	5件(累計) 5年度	遅れ	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	工事調整の結果、規制対象箇所以外の庄内川河口部及び70号岸壁のしゅんせつをする必要が生じ、実施したため「遅れ」となった。方向性を判断した理由は、船舶の安全性確保や港湾物流機能の強化には、引き続きしゅんせつによる水深維持の確保及び水深規制の解除が必要不可欠であるため。なお、庄内川しゅんせつは、毎年関係者調整を行い、中部地方整備局が施工場所を決定しているため、成果を「維持」、コストも「維持」とした。
施01事06	水域施設・係留施設等の管理・運営 (海務課)	公共岸壁の防舷材の健全率 【進捗管理型】	87.0% 85.2% 114,403千円	90.0% 84.2% 10,024千円	93.0% 84.4% 25,064千円	100% 5年度	順調	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	施設の状態調査及び計画的な維持管理を継続的に行うことにより、船舶の安全な係留に寄与するものと考えられるため。
施01事07	港湾施設の維持管理 (港湾管理事務所)	損傷による使用停止港湾施設の数 【単年度管理型】	0件 0件 610,174千円	0件 0件 489,461千円	0件 0件 764,010千円	0件	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	良好な港湾施設を保つには現在の事業規模を確保する必要があるため。
施01事08	ポートセールスの推進 (誘致推進課)	名古屋港セミナーに対する理解度(国内) 【単年度管理型】	70% 63.3% 162,517千円	73% 0% 162,608千円	75% 0% 157,991千円	80% 5年度	目標値を下回る	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	感染症の影響により懇談会(東京開催)及び海外ポートセールスが実施できなかったことから、成果目標の実績値は0%で「目標値を下回る」となった。方向性を判断した理由は、貨物及び航路を誘致するため、懇談会及び訪問による名古屋港のPR及び情報収集は不可欠であるため。なお、今後の成果は、引き続き目標達成を目指すことから「維持」、コストも「維持」とした。
施01事09	インセンティブによる船舶誘致・港湾施設の効率的な使用促進 (港営課)	コンテナ船定期航路数 【単年度管理型】	76航路 72航路 3,670千円	73航路 73航路 3,664千円	73航路 76航路 3,600千円	74航路 5年度	目標値を上回る	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	引き続き、船舶の誘致や港湾施設の効率的な使用を促進する必要があるため。
施01事10	船舶通航情報センターの管理・運営 (海務課)	適切な情報提供ができなかった回数 【単年度管理型】	0回 0回 126,990千円	0回 0回 130,743千円	0回 0回 36,000千円	0回	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	引き続き、適正な無線通信及び船舶監視を行い、安全で効率的な船舶通航を図っていくため。
施01事11	物流動向の調査 (企画担当)	物流動向調査とりまとめ回数 【単年度管理型】	2回 2回 9,290千円	2回 2回 9,201千円	2回 2回 9,053千円	2回	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	今後の港湾経営を検討する基礎資料として、物流動向等を適切に把握する必要があるため。
施01事12	港湾統計事務 (企画担当)	月報、年報等作成件数 【単年度管理型】	29件 29件 153,043千円	29件 29件 132,825千円	29件 29件 134,167千円	29件	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	統計データは名古屋港の港湾経営や港湾計画の立案等をする上で活用されており、より精度の高いデータの収集と集計データの提供を行っていく必要があるため。
施01事13	船席指定事務 (海務課)	適正な船席指定ができなかった回数 【単年度管理型】	0回 0回 74,309千円	0回 0回 74,204千円	0回 0回 72,900千円	0回	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	全ての利用者に対して不平等な扱いとならないよう本組合が適正な船席指定を行う必要がある。
施01事14	国際バルク戦略港湾の取組 (計画担当)	国際バルク戦略港湾の取組状況 【単年度管理型】	3回 3回 9,174千円	3回 3回 9,161千円	3回 3回 9,000千円	3回	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	穀物輸入を取り巻く環境等を見極めながら取り組んでいく必要があるため。
施01事15	港湾厚生施設の維持管理 (港営課)	港湾福利厚生施設数 【単年度管理型】	16棟 16棟 6,971千円	16棟 16棟 6,268千円	16棟 16棟 6,163千円	16棟	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	引き続き、港湾労働者のために港湾厚生施設を適切に維持管理する必要があるため。
施01事16	航路体系に係る検討 (計画担当)	海事関係団体との意見交換等の回数 【単年度管理型】	2回 2回 16,177千円	2回 1回 19,460千円	2回 2回 8,100千円	2回	目標値どおり	継続	維持	維持	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。	名古屋港を利用する船舶にとって、より安全で使いやすい港としていく必要があるため。

施策コスト(合計)	6,739,355千円	7,444,462千円	13,887,353千円
-----------	-------------	-------------	--------------

3. CHECK(成果目標の状況・3年度の実績内容など)

施策 成果目標	実績等		元年	2年	3年	目標値 [5年]	成果目標の達成度に対する評価(外部要因等があればその旨を踏まえて記載)
	(仮目標値)※	年					
総取扱貨物量	(仮目標値)※	トン	(2億327万)	(2億995万)	(2億1,664万)	2億3,000万	令和3年は、総取扱貨物量は前年比5.5%増、外貨コンテナ取扱個数は前年比10.3%増と前年実績を上回ったものの感染症の影響は続いており、いずれも仮目標値を達成できなかった。しかし、総取扱貨物量は20年連続で全国第1位を堅持し、外貨コンテナ取扱個数は令和2年同様全国第3位となるなど、名古屋港はものづくり産業を物流面で支える重要な役割を果たしている。 両目標値については、総取扱貨物量及び外貨コンテナ取扱個数が回復傾向にあるが、引き続き、感染症による影響を注視していく。
	実績	トン	1億9,444万	1億6,855万	1億7,779万		
外貨コンテナ取扱個数	(仮目標値)※	TEU	(278万)	(286万)	(294万)	310万	
	実績	TEU	265万	230万	254万		

※ 仮目標値 = 初期値(30年) +  $\frac{\text{目標値(5年)} - \text{初期値(30年)}}{5\text{年間(中期経営計画期間)}}$  × 30年からの経過年数

構成事務事業の妥当性(施策目的を達成するために構成した事務事業に不足や問題点はないか?)	
適正・見直しが必要	「施01事03(西航路拡幅事業)」については、関係者調整の結果、全体工程の見直しが必要となっており、令和4年度に全体工程の見直しを行う。

4. ACTION(課題・4年度以降の取組方針)

(1)重点施策1

3年度に取り組んだ内容	課題	4年度以降の取組方針
<p>重施01事01 飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業</p> <p>令和3年度の直轄事業の実施内容について国と協議を行い、国が飛島ふ頭東側コンテナターミナルR1岸壁の水深15m化、耐震化の改良工事を実施した。名古屋四日市国際港湾株式会社は、本組合からの貸付金を活用して、R1岸壁の荷役機械(ガントリークレーン)の設計・工場製作を実施した。</p>	岸壁整備の進捗が当初目標よりやや遅れており、全体工程の見直しが必要となっている。	直轄事業の実施内容や、岸壁整備の全体工程見直し等に係る国との協議を引き続き行い、事業の進捗を図っていく。
<p>重施01事02 金城ふ頭地区ふ頭再編改良事業</p> <p>令和3年度における直轄事業の実施内容について国と協議を行い、国が新たな水深12mの岸壁の整備を行った。本組合は、背後の用地造成のための護岸整備を行った。なお、背後の用地造成事業の進捗状況の検証を追加実施した。</p>	岸壁整備の進捗が当初目標より遅れており、事業の進捗を図る必要がある。	引き続き、直轄事業の岸壁整備の実施内容について国と協議を行い、背後の用地整備については、着実に事業進捗を図っていく。
<p>重施01事03 新たな土砂処分場の確保</p> <p>本組合が基金を拠出し、一方、国により護岸整備が着手した。</p>		
<p>重施01事04 ポートアイランド利活用のあり方検討</p> <p>利活用の港湾管理者素案をもとに、国と協力して関係団体等から幅広い意見を聴取しながら、より具体的な利用者ニーズを把握するなど、関係者との議論を行った。</p>	物流面や産業面での新たな動きを捉えつつ、エネルギー面での利用の期待も高いことから、利活用のあり方について関係者と議論を深めていく必要がある。	物流や産業に関する新たな動向の把握や、令和4年度末を目途に策定を予定しているカーボンニュートラルポート(CNP)形成計画において検討を行うなど、引き続き、国と協力して、関係者と議論を深めていく。
<p>重施01事05 カーボンニュートラルポート(CNP)形成の推進</p> <p>CNP形成計画の策定に先立ち、次世代エネルギーの利活用に関する施策の取組の方向性を取りまとめた。</p>	民間事業者が本港において事業展開しやすい環境を提供できるよう、CNPの実現に向けた取組の方向性を関係者と共有していくとともに、CNPの普及や啓発に関する幅広い事業等も進めていく必要がある。	本港及びその周辺地域における脱炭素化に幅広く貢献できるよう、CNP形成計画を策定するとともに、民間事業者が実施する実証事業等にも積極的に連携・協力していく。あわせて、次世代エネルギーの普及・啓発を目的としたイベントを開催する。
<p>重施01事06 LNGバンカリング拠点形成の支援</p> <p>LNGバンカリング拠点形成に向けて、LNG燃料船及びLNG燃料供給船の動向や本港への配船に向けた課題等について、民間事業者と情報共有や協議を実施した。また、伊勢湾海難防止協会が主催する委員会に参加し、本港におけるLNG燃料供給事業拡大に係る船舶航行安全に関する調査研究を行った。</p>	令和3年度は、LNG燃料船が2隻入港したが、LNG燃料船及びLNG燃料供給船の令和5年度の目標入港隻数80隻を目指す中、本港においてLNGバンカリングを実施できるよう、関係者へ周知を図ることが必要である。	LNG燃料船及びLNG燃料供給船の本港への配船の動向を注視していく中で、LNGバンカリング拠点形成に向けて積極的に情報収集を行うとともに、関係者へ情報提供を行っていく。
<p>重施01事07 名古屋港の物流効率化に向けた情報通信技術の活用</p> <p>「サイバーポート推進WG(港湾物流)」は、今年度、開催されなかったが、国が行っているサイバーポートの機能改善などの情報を収集し、民間事業者と情報交換を行った。情報通信技術の活用については、民間事業者と連携して、施策の具体化に向けた検討を行った。</p>	国や地元関係者の情報通信技術の取組に関する検討状況を踏まえ、官民が連携して取組を進める必要がある。	引き続き、国のワーキンググループへの参画を通して情報収集するとともに、関係者と協議を重ね、情報通信技術の活用に向けて取り組んでいく。
<p>重施01事08 愛知県内3港連携・伊勢湾連携の推進</p> <p>平成31年に創設したLNGバンカリング制度、愛知県港湾物流ビジョンにおける港湾物流機能強化施策、伊勢湾の港湾ビジョンにおける対応策を継続して実施した。感染症による影響を踏まえ、令和3年12月に岐阜県庁及び岐阜商工会議所に対して、四日市港と連携したポートセールスを実施した。愛知県内3港の連携に関する勉強会を3回実施した。</p>	感染症による影響を踏まえて、ポートセールス等連携施策についても検討・実施していく必要がある。	感染症による影響を踏まえて、ポートセールスを実施するとともに、関係者による勉強会を開催するなど、より一層利用される港となるよう、更なる連携施策についても検討・実施していく。

(2) 施策1

施01事01 飛島ふ頭南ふ頭用地整備事業
護岸工事に着手した。
施01事02 飛島ふ頭南側コンテナターミナル拡張予定地の活用
確保した用地の暫定活用に向けて、関係者と調整を行った。 拡張用地全体の確保に向けて、立地企業との情報交換を行った。
施01事03 西航路拡幅事業
令和3年度の直轄事業の実施内容について国と協議を行い、国が航路浚渫の実施に向けた調査を実施した。
施01事04 庄内川泊地整備事業
庄内川から流入する土砂により、港湾施設の利用に支障が生じないようにしゅんせつが必要な箇所及び規模について国と協議を行い、その協議に基づき、国がしゅんせつを行った。
施01事05 港内泊地の維持しゅんせつ
令和3年度は、中部地方整備局による庄内川しゅんせつにおいて、庄内川からの流下土砂対応のために、前期に庄内川河口部のポンドを、後期に70号岸壁の前面をしゅんせつした。
施01事06 水域施設・係留施設の管理・運営
令和3年度の防舷材の補修については、福永ふ頭25号5本、金城ふ頭54号2本、55号2本、56号2本、76号3本、77号2本、78号1本の計17本の防舷材の取替を実施した。
施01事07 港湾施設の維持管理
港湾施設使用許可申請書の受理、利用者調整、施設利用状況及び損傷箇所の確認、港湾施設の補修を行った。
施01事08 ポートセールスの推進
名古屋港利用者懇談会(名古屋開催)は、感染症対策として会場参加人数を絞り、会場収容率を基準値以下としたうえで、オンラインによる参加も可能とすることにより実施した。 しかし、感染症の影響により、懇談会(東京開催)及び長野県企業訪問は、感染拡大防止の観点から実施を見合わせ、名古屋港のPR資料等の送付に代え、海外ポートセールスについては実施を見合わせた。 また、名古屋港利用促進協議会ホームページの開設や雑誌「名古屋港」の発行を通して、名古屋港のPRや情報提供の拡大に取り組んだ。
施01事09 インセンティブによる船舶誘致・港湾施設の効率的使用促進
入港料及び港湾施設使用料の減免を行った。
施01事10 船舶通航情報センターの管理・運営
船舶の動静については、VHF無線電話及び船名確認カメラ等を活用し、船舶の位置情報、係留施設への着離岸を把握した。また、水先人へのタグボートの手配情報、風向風速など気象情報、船舶の運航に係る情報提供を行った。
施01事11 物流動向の調査
感染症による本港の取扱貨物及び企業活動への影響や伊勢湾港湾における連携に向けた取組状況、近年注目されている次世代航空モビリティ・半導体・電気自動車の動向について調査研究を行った。
施01事12 港湾統計事務
名古屋港への入港船舶及び取扱貨物量を調査し、月・年報に集計し国に報告するとともに、港湾統計情報として刊行物及びインターネットにより公表しました。併せて、港湾関係者及び庁内からの諸施策に活用できる統計資料の作成要請に対応した。
施01事13 船席指定事務
週3回のバース会議(船舶代理店等との調整)により入港船舶のバースを決定し、入港料及び係留施設使用料の調定業務を行った。
施01事14 国際バルク戦略港湾の取組
国際バルク戦略港湾推進会議に参加し、他港の動向の把握を行うとともに、国土交通省へ国際バルク戦略港湾に関する提案・要望活動を行いました。また、穀物輸入を取り巻く環境等の情報収集や穀物関連企業への意向調査を行った。
施01事15 港湾厚生施設の維持管理
船員船客待合所、公衆便所の委託清掃の実施、また、船員船客待合所の消防設備の点検を行いました。施設を良好な状態に維持するとともに、快適な港湾労働環境を形成することができた。
施01事16 航路体系に係る検討
海事関係団体に東航路の課題について聞き取りを行い、現在の東航路の航路環境が船舶交通に与える影響および安全性と効率性を兼ね備えた将来の航路体系について検討を行った。

飛島ふ頭南コンテナターミナルの荷役作業に大きな支障が出ないよう、関係者調整を行いつつ、事業を進めていく必要がある。	関係者との工程調整やコンテナターミナル近隣施設との施工調整を行いながら、着実に事業を進めていく。
暫定活用については、将来の施設整備に支障が生じないものとする必要がある。また、拡張用地全体の確保に向けて準備していく必要がある。	確保した用地については、引き続き暫定活用に向けて関係者と調整を進める。また、拡張用地全体の確保に向けて立地企業との情報交換を進める。
関係者調整の結果、全体工程の見直しが必要となっている。	直轄事業の実施内容や全体工程の見直し等に係る国との協議を引き続き行い、事業の進捗を図っていく。
今後も国と協議を行いながら、着実に事業を実施する必要がある。	引き続き、しゅんせつが必要な箇所及び規模について国と協議を行い、着実に事業を進めていく。
中部地方整備局や港湾関係者との協議により、優先度の高い箇所からしゅんせつを行うことから、毎年、海図の浅所記載が解除されるとは限らない状況にある。	国の庄内川しゅんせつについては、本組合の方針だけでは施工箇所を決められない難しさがあることから、今後も中部地方整備局や港湾関係者と協議を行い、浅所のしゅんせつ及び水深規制解除が行えるよう調整を行っていく。
補修が必要な防舷材は、年々増加しており、限られた予算の中で計画的に行う必要がある。	港湾施設の維持管理に係る「港湾施設等アセットマネジメント推進計画」に基づき、施設の利用頻度や損傷度合から優先順位を付け、維持管理を実施する。
港湾施設の老朽化が進行しており、修繕に加えて大規模改修を行わなければ、安全な施設供用ができないだけでなく利用者の要望に応えられない等、利用不可能な箇所も発生しうるような状況である。	港湾施設の安全な供用と利用者の要望に応えるためには、提供施設の改修等を計画的に実施していく。
感染症の影響により、一部の事業においてオンライン参加を可能としたり資料発送等に変えるなど非対面の手法を試み一定の成果を上げたが、対面型には及ばないところが見受けられたため、更なる効果的な運営手法を検討する必要がある。 引き続き、情勢の変化に柔軟に対応しながら、船会社、荷主、商社等の利用者ニーズの把握に努め、官民一体となったポートセールス活動を継続して行うことにより、名古屋港の利用を促進していく必要がある。	感染症の影響の見通しは未だ不透明な中であることから、一部事業の実施が困難な状況が生じかねないが、感染症の状況を注視しつつ基準に合致したなかで、効果的な手法により継続してポートセールス活動を実施していく。 このほか、ホームページ及び港湾振興誌による情報発信や名古屋港のPR動画を活用し、官民一体となったポートセールスを行うとともに、姉妹港・パートナーシップ港を通じた海外の最新情報の収集を行う。 なお、成果については、感染症の影響に注意しつつ実績値の向上を目指していく。
船舶の誘致や港湾施設の有効な活用を促進するため、利用者のニーズに合ったインセンティブを幅広く検討する必要がある。	他港のインセンティブの調査等を行い、取扱貨物量の増加、船舶の誘致、港湾施設の有効な活用及び取扱機能の集約・拠点化に寄与するインセンティブを検討する。
無線局業務の全面委託後もコスト削減を念頭に置きつつ、適切で確実な情報提供を実施する必要がある。	名古屋港を利用する船舶について、船舶の安全航行に必要な情報を引き続き適切に提供をしていく。
港湾を取り巻く環境変化や背後圏企業のニーズに対応するため、幅広く情報収集する必要がある。	引き続き、社会経済情勢、港湾を取り巻く環境変化を注視しつつ物流動向について調査研究していく。
統計データは名古屋港の港湾経営や港湾計画の立案等をする上で活用されており、より精度の高いデータの収集と集計データの提供を行っていく必要がある。	NACCSデータの活用等、データ作成に応じたシステムの更新等を行い、より精度の高いデータの収集と集計データの提供を行う。
西部(飛島・弥富)地区への倉庫等の企業進出が進んでおり、飛島ふ頭や弥富ふ頭において、在来船の恒常的な混雑が発生している。また、平成30年12月から金城ふ頭1・2突間の埠頭用地整備が開始され、埋め立てに伴い5バースが廃止となったことから、金城ふ頭における在来船の混雑が発生している。	荷役作業や船型等を考慮し、利用者(船舶代理店、船社・港湾運送事業者)の意向を最大限に反映できるように、適正な船席指定を行う。
穀物輸入を取り巻く環境や社会経済情勢が大きく変化していることから、関係者の意見を十分に聞きながら進める必要がある。	引き続き、国際バルク戦略港湾推進会議へ参加して他港の動向等を把握するとともに、穀物関連企業や国と協議を十分行っていく。
老朽化が進んでいるため、維持管理計画に基づく補修、適切な管理を行う必要がある。	維持管理計画書及び港湾施設等補修スケジュールに基づき、施設の老朽化対策も併行して行いながら適切に維持管理していく。
施設整備と規制緩和等のハード・ソフトの両面から検討を進める必要がある。	利用者のニーズを把握しながら、関係者と連携して船舶交通環境の改善に資する取組について広く検討を進める。